

平成 19 年度情報処理学会喜安記念業績賞を受賞して

受賞業績 Web サービス技術の基盤確立と標準化, ならびに普及への貢献

丸山 宏^{*1} 羽田知史^{*1} 根山 亮^{*2} 中村祐一^{*3}

^{*1} 日本アイ・ビー・エム (株) 東京基礎研究所 ^{*3} 日本アイ・ビー・エム (株) サービス事業部

^{*2} トヨタ IT 開発センター

我々がそもそも XML に注目したのは、1997 年頃に Web のメタデータの標準構文としてであるが、1998 年 2 月に XML が標準化された時点ではすでに、XML を企業間データ交換 (いわゆる EDI) に使えるのではないかということが議論され始めていた。1999 年の後半から 2000 年にかけて、IBM はマイクロソフト社、ARIBA 社と共同で XML をベースにした、Web 上でのデータ交換標準、いわゆる Web サービスの策定を議論した。企業間データ交換においては、セキュリティが重要なポイントとなる。IBM の中で東京基礎研究所は XML のデジタル署名や暗号化などの技術でリードしていたために、我々も Web サービス仕様の策定に中核メンバとして参加することとなった。

特に、SOAP のデジタル署名提案に始まる Web サービス・セキュリティの初期の仕様策定には中心的な役割を果たしたと自負している。国際的標準の策定は、企業の思惑が複雑に絡みあって、なかなか一筋縄ではいかないものである。その中で我々のチームは、標準化の提案を出すと同時にそれを実装し、技術的に実証することによって、標準化コミュニティの中での信頼を勝ち得ていた。

グローバルな IBM の一員としてであるが、このような重要な技術の根幹に、日本から大きな貢献ができたのは非常に幸せなことだと感じている。また、受賞者

は 4 名だが、Web サービス各種仕様とその実装に関して、東京基礎研究所の他のメンバ、それに日本からアカデミアや他社を含めて多くの貢献があったことを記して、合わせて感謝したい。

これからも、内外の多くの優秀な研究者・技術者と力を合わせて情報技術の発展に尽くしたい。

(平成 20 年 4 月 22 日受付)

丸山 宏 (正会員) maruyama@jp.ibm.com

IBM の基礎研究部門の一員として、XML や Web サービスの標準化および初期の技術開発をリードした。現在日本アイ・ビー・エム (株) 東京基礎研究所所長、博士 (工学)。

羽田 知史 satoasih@jp.ibm.com

日本アイ・ビー・エム (株) 東京基礎研究所にて、XML セキュリティ、Web サービス・セキュリティ、アクセス制御、プライバシー保護、内部統制、暗号理論の研究に従事。博士 (情報科学)。

根山 亮 (学生会員) neyama@muraoka.info.waseda.ac.jp

日本アイ・ビー・エム (株) 東京基礎研究所にて、SOAP エンジン、Web サービス・セキュリティ、分散キャッシュの研究に従事。現在 (株) トヨタ IT 開発センター、早稲田大学理工学術院博士課程に在籍。

中村 祐一 (正会員) nakamury@jp.ibm.com

日本アイ・ビー・エム (株) 東京基礎研究所にて、Web サービスのセキュリティやパフォーマンスなどの研究に従事し、標準化、オープンソース、ならびに製品化に貢献。現在、サービス事業部に勤務。工学博士。